

「笑顔とあいさつでみんなをつなぐ」…自分こそがまちづくりの主体者！

校長 松本 雅史

9月の第3週、彼岸の入りの直前まで猛暑日は続き、ミンミンゼミの合唱が響いていました。以前でしたら、8月終盤にはヒグラシの「カナカナカナ…」という声が聞こえていたというのに…。この悪化し続ける気候の変化に対し、私たちはその対応にただ追われるだけでいいのでしょうか。

さて、9月1日（月）に新学期が始まりました。学校にこどもたちの笑顔が戻ってきました。しかし、この暑さです。登校してくるこどもたちは、どうもお疲れの様子です。朝、校門に立っていて「挨拶が少ないな」「1学期の元気はどうしたのかな」と感じていました。地域の安全見守りの方々からも同様の声をいただきました。早速、現状を職員室で先生方にお話ししましたところ、その話をすぐにこどもたちにしてくれたようです。

「笑顔とあいさつでみんなをつなぐ ～心も環境もきれいなまち～」

が、私たち花南中校区のまちづくり宣言だったはずです。いよいよ2学期！この宣言をさらに行動として推し進めていこうというのに…あいさつはできているつもりだったのだけれど…本当にそうなのだろうか、6年生有志が自発的に朝校門に立ちました。まず、全校の挨拶の実態をしっかりとつかんでいこう！との思いでした。

すると…、全然挨拶が返ってこない…みんな下を向いている…

これでは、地域の方が心配されるのももっともだ…

もう、自分たちがやるしかない！まず、私たち6年生が、挨拶を学校に漲らせていこう！

この頼もしい6年生の率先垂範の行動に、

「私たちも一緒にやってもいいですか！」

と、5年生をはじめ下学年の子が、朝の挨拶の列に加わり始めました。…



以前、こんなエピソードを伺ったことがあります。大縄跳びのイベントに挑戦するクラスの話です。どうしても跳べない仲間がクラスにいる。記録を出したい。優勝したい。その葛藤の中で、「どうしたら勝てるだろう」という問いから、「本当に自分たちにとって大切なもの」は何なのだろうと、練習と話し合いのものがきの中で「問いの質」自体が変わっていき、勝ち負けを超えたドラマが生まれていったということでした。

ただ単に、こどもから「何をしたい？」と表面的な願いを拾い上げ、追求（追究）させるだけの学びは、一見主体性を尊重しているようで、実は目指すゴールが甘く、一部のこどもの自己満足だったり、行き当たりばったりになったりすることが多いです。そうではなく、本当に自分たちにとって大切なものは何なのかと、問題を自分事として捉え、時に自分自身に本気で向き合っていく先ほどの大縄跳びのような経験も人としての成長にはとても意味をもちます。

言われたから挨拶をするというマインドから、よりよい学校、よりよいまちを自分たちの手でつくっていきたい！と、問題を自分事ととらえて校門に立った、今回のこどもたちが示したその一歩の価値の深さははかりしれません。

本校は、「夢を描き、追い求め、実現する」がテーマです。そして、「心も環境もきれいなまち」づくりの主体者は自分たちだと謳ったのが南中校区のまちづくり宣言です。この「夢」をみんなと、みんなの力で追い求めて実現していく学校でありたいと思います。

最後になりますが、25日（土）は運動会です。こどもたちの躍動する姿に大きな声援をお願いいたします。